

# ベビー・スイミングについて

## —第2報— 母親の意識調査—

研究第2部  
副所長

曾根 秀子・青柳 幸子  
宮崎 叶・澤田 啓司\*  
高橋 悦二郎

### I. はじめに

われわれは前回の調査<sup>1)</sup>で関東地方におけるベビー・スイミング（以下B.S.と略）の普及および実施状況を把握した。すなわち、日本スイミングクラブ協会関東支部に登録（1980年1月現在）の190カ所のスイミングクラブ（以下S.C.と略）およびスイミングスクール（以下S.S.と略）を対象として調査した結果、B.S.実施中が18カ所、開設予定ありが6カ所であった。今回は実施中のうち、参加ベビー数の比較的多かった、多摩川S.S.（神奈川県川崎市）と Rond S.S. 東村山（東京都東村山市）の2カ所において、母親に対するアンケート調査を行ったので報告する。

調査目的は、母親のB.S.およびS.C.に対する認識、児の健康管理に対する留意度などを把握し、前回調査のS.C.の管理責任者の意識と照らし合わせてみることにある。

### II 調査対象および調査方法

対象は0歳～2歳児（すなわち3歳未満）をB.S.に参加させている母親、多摩川S.S.が174名、Rond S.S. 東村山が83名で計257名である。

調査方法は、アンケート調査用紙の留め置き式で、各S.S.へ調査用紙の手渡しによる配布と回収を依頼した。

調査期間は1980年12月～1981年1月であった。

### III 調査内容

- ① 児の健康状態、母親による健康管理状況
  - ② 家庭（家族・住居）環境
  - ③ 母親のB.S.に対する認識
  - ④ S.C.とB.S.に関して、現在および今後の問題点
- 上記を主眼に全29項目。調査用紙は本稿末尾に添付した。

\*今回調査より参加

### IV 調査結果

#### 〔1〕 回収率と性別別数

第1表のごとく、回収率は配布数257に対し、回収数179と、69.6%であった。この179名の母親の回答を通じて対象とした児の性別人数を第2表に示した。男児が女児より多く、ほぼ2:1の割合であった。

なお、児の受けているB.S.のレッスン形態は「児のみで」が93名、「母児ペアで」が86名である。

第1表 回収率

	配布数	回収数	回収率
多摩川 S.S.	174	136	78.2
Rond S.S. 東村山	83	43	51.8
計 (全体)	257	179	69.6

第2表 児性別

	人数	%
男	118	65.9
女	61	34.1
計	179	100.0

#### 〔2〕 児の年月齢

(B.S.を開始した時点での年月齢別児数と、調査時点での年月齢別児数を第3表に示した。B.S.の開始は生後6カ月頃がよいとされている。今回調査のS.C.でも、生後6カ月たった児から受け入れるのが原則となっている。その理由の一つは6カ月位までに先天異常が大体発見され、スクリーニングが済んでいることであり、いま一つの理由はこの頃はまだ水に対する恐れが少ないということである。そして、水慣れが比較的楽にできる1歳未満に始めるのがよいとされている<sup>2)</sup>。調査結果は、最も早く始めている児が生後4カ月で1名、生後6カ月がらが一番多く33名であった。そして、1歳未満で始め

第3表 B.S.開始時および調査時の月齢別人数

	B.S.開始時	小計	調査時	小計
0歳4カ月	1		0	
5	9		0	
6	33		3	
7	14	115	1	27
8	23	(64.2%)	5	(15.1%)
9	12		6	
10	15		8	
11	8		4	
1歳0カ月	7		6	
1	3		8	
2	10		6	
3	5		9	
4	2		9	
5	7	57	9	97
6	4	(31.8%)	12	(54.2%)
7	6		7	
8	7		8	
9	3		7	
10	1		12	
11	2		4	
2歳0カ月	4		4	
1	1		5	
2	0		5	
3	1		5	
4	0		7	
5	0	7	5	52
6	1	(3.9%)	7	(29.1%)
7	0		6	
8	0		2	
9	0		4	
10	0		2	
11	0		0	
3歳0カ月～	0	0	3	3
計		179		179

第4表 始めてからの期間

	人数	小計
1カ月未満	13	
1カ月	14	
2	13	74
3	16	(41.3%)
4	5	
5	13	
6	9	
7	12	
8	14	56
9	11	(31.3%)
10	3	
11	7	
1年0カ月	4	
1	7	
2	3	19
3	1	(10.6%)
4	3	
5	1	
6	4	
7	4	
8	1	19
9	4	(10.6%)
10	4	
11	2	
2年0カ月	2	
1	2	
2	4	11
3	1	(6.1%)
4	1	
5	1	
計	179	179

た児は計115名で、64.2%を占めている。

第4表はB.S.を始めてから調査時点までの期間を示した。平均は8.7カ月間になる。

〔3〕健康管理状況

「B.S.開始にあたって健康診査を受けましたか」との質問に対して、「受けた」は47(26.3%)、「受けなかった」は132(73.3%)であった。「受けたのは誰にですか」に対しては、ホームドクターが38、S.C.指定医が5、その他が4であった。以上のようにB.S.開始に

あたって健診を受けるものは少ない。しかし、乳幼児は定期的に健康診査を受ける機会があり(自治体による3, 6, 9カ月, 1歳半などの健診), これらをB.S.開始直前に受診していることが考えられる。実際「受けていない」との回答の中に「ただし6カ月健診で医師に相談した」との記載が2~3見受けられたことから、定期的に健康診査を受けていれば、あらためてB.S.開始時に受ける必要はない場合も考えられる。従って、定期健診をどの程度受診しているかをみることによって、母親による児の健康管理状況を把握することにした。

第5表は、対象児の定期健診の受診率を年齢別に、幼

第5表 健康診査の年齢別受診率の対比

幼児健康度調査（55年、日本小児保健協会）との対比 (%)

	0歳児		1歳児		2歳児	
	B.S.(27)	B.S.(97)	幼(6835)	B.S.(52)	幼(1693)	
1カ月健診	63.0	48.0	82.7	38.5	81.5	
3カ月	96.3	78.4	82.4	75.0	82.9	
6カ月	85.2	55.7	59.6	71.2	59.6	
9カ月	48.1	49.5	37.3	46.2	34.6	
1歳	—	48.5	42.4	55.8	47.4	
1歳6カ月	—	22.7	—	67.3	55.6	

幼児健康度調査（昭和55年、日本小児保健協会）のそれと対比させたものである。幼児健康度調査は全国の1歳児～就学前5、6歳の幼児を延15,045人対象として行われたもので、昭和55年のわが国における幼児の平均的な健康度を表わしていると考えられる。さて、第5表では生後6カ月以降の受診率において、B.S.群の方が高いところが多い点が注目される。6カ月以降とはB.S.を開始している児が多い時期であるから、開始時のみの健康チェックではなく、その後も定期健診を比較的良好（理想的には年2回である）受けているという点で望ましい結果である。

同じく第6表は、予防接種の接種率を幼児健康度調査と対比させたものである。接種率ではすべての年年齢でB.S.群が上廻っており、プールという多勢の人が集まる場所柄か、伝染性疾患に関する母親の配慮の程度が、一般より高いことがうかがえる。

第6表 予防接種の年齢別接種率

幼児健康度調査（55年、日本小児保健協会）との対比 (%)

	0歳児		1歳児		2歳児	
	B.S.(27)	B.S.(97)	幼(6835)	B.S.(52)	幼(1693)	
ツベルクリン	85.2	89.7	55.6	96.2	69.6	
B.C.G	85.2	85.6		96.2		
ポリオ1回目	81.5	88.7	79.6	94.2	90.8	
2回目	11.1	72.2		86.5		
3種混合	7.4	12.4	6.6*	50.0	45.7*	
麻疹	0.0	19.6	8.2	71.2	43.5	

\*2種混合が含まれている

第7表は、これまで受診した健康診査において指摘されたとしている異常の内容について示した。「異常あり」は男児6名、女児4名で、計10名であった。

第8表には、調査時点における児のもつ障害、異常に

第7表 過去の健康診査における異常ありの内容

No.1	1カ月	♂	顔面湿疹、オムツカブレ
No.2	♂	要観察→3カ月で良	
No.3	♂	そけいヘルニア（手術済）	
No.4	♀	右内反足	
No.5	3カ月	♂	股関節やむかたい
No.6	♀	〇脚気味	
No.7	♂	ダウン症確定	
No.8	6カ月	♂	気管支喘息
No.9	♀	左足をつらばる（経過観察）	
No.10	1歳6カ月	♀	少しやせ、食事量の注意

第8表 調査時の障害・異常

No.1	♂	ペルテス病
No.2	♂	ひきつけを起こしやすい
No.3	♂	ひきつけを起こしたことがあり、予防接種不可
No.4	♂	アレルギー性小児喘息
No.5	♂	湿疹
No.6	♂	ダウン症
No.7	♂	発達遅滞
No.8	♀	右内反足
No.9	♂	1カ月前に肺炎

ついて示した。このうち症状の軽減を目的としてB.S.を始めたとするものはNo.6とNo.7の2例で、いずれも歩行開始が遅かったためである。

さてここで、B.S.と障害児について現状に触れておけば、現在のところB.S.はその目的として病気や障害を治すことをうたっていない。すなわち、どのような病気・障害に、どのような効果があるのか、わかっていない。しかし、だからといって、障害児はB.S.に参加できないというわけではないことは、今回の調査でもわかったし、この他2～3のB.S.からは、「可能な限り受け入れている」という回答を得ている。

つまり、障害が治るという効果が期待できるかどうかは、今の段階では不明であるが、専門家の許可を得られたベビーについては、B.S.が行われている。そして、その目的は治療ではなく、普通児と同じく、「水慣れ」「母親の触れ合い」と考えるのが、現状では正しいと言える。そして、水泳がどのような種類の病気や障害に対し、どのような効果があるのか、また、それをいつ始めるのがよいかなどは、その分野の研究が進められることを期待する。

〔4〕 家庭（家族・住居）環境について  
子どもをB.S.に参加させている父母の年齢、職業、

第9表 父母の年齢

	父	母	父(%)	母(%)
～24歳	1	9	0.6	5.0
25～	48	104	26.8	58.1
30～	95	55	53.1	30.7
35～	30	6	16.8	3.4
40～	4	1	2.2	0.6
無回答	1	4	0.6	2.2
計	179	179	100.1	100.0

第10表 父母の職業

	父	母	父(%)	母(%)
農林漁業	0	0	—	—
自営業	17	3	9.5	1.7
販売業・サービス業	24	0	13.4	—
技能職・熟練職	6	0	3.4	—
一般作業職	1	0	0.6	—
事務職・技術職	89	2	49.7	1.1
経営職・管理職	16	0	8.9	—
専門職・自由職その他	21	5	11.7	2.8
小計	174	10	97.2	5.6
家庭婦人	—	164	—	91.6
無回答	174	—	2.8	—
計	179	179	100.0	100.0

第11表 前年度年収(54年次, 父+母)

	回答数	小計	%
100万～	1		
200万～	14	15	8.4
300万～	36	88	49.2
400万～	52		
500万～	13	19	10.6
600万～	6		
700万～	2		
800万～	3	9	5.0
900万～	4		
無回答	48	48	26.8
計	179		100.0

前年度所得、最終学歴を第9表～第12表に示した。父母の年齢の平均はそれぞれ父親30.2歳、母親28.7歳である。職業では仕事をもうけている母親が10名いることがわかった。その職種は、専門職、自由職、自営業などが8

第12表 父母の最終学歴

	父	母	父(%)	母(%)
大学	121	60	67.6	33.5
短大・専	10	48	5.6	26.8
高校	35	50	19.6	27.9
中学校	1	2	0.6	1.1
無回答	12	19	6.7	10.6
計	179	179	100.1	99.9

名で、比較的時間が自由になると思われる職種が主である。ただし、「月2回位しか通えないが、普段かまってもやれないから休暇をとって続けている」という例がある。「母児の触れ合い」を目的としている一例と言えよう。

前年度の所得については、共働きの場合は父母の所得を合計した結果を集計した。参考に昭和54年の厚生省国民生活実態調査をあげれば、一世帯当りの平均所得は358,5千円となっている。今回我々の調査での全体の平均は、414,6千円で、全国平均よりやや高いが、最も多かったのは400万円台であり、300万円～500万円未満が約50%を占めていて、首都圏であることも考慮すれば、特に高額所得者が多いとは思われない。

父母に対して泳げるか否かの質問の結果は第13表の通りであった。母親のおよそ4分の1は「泳げない」との回答である。

児の兄弟姉妹について第14表に示した。「現在のところ兄弟姉妹はなし」が圧倒的に多く、76.0%であるが、通うのが大変だろうと思われる「下あり」「上・下あり」

第13表 父母の泳ぎ

	父	母	父(%)	母(%)
可	162	125	90.5	69.8
不可	12	48	6.7	26.8
無回答	5	6	2.8	3.4
計	179	179	100.0	100.0

第14表 ベビーの兄弟姉妹

	人数	%
現在のところなし	136	76.0
上あり(兄又は姉)	26	14.5
下あり(弟又は妹)	14	7.8
上・下あり	2	1.1
無回答	1	0.6
計	179	100.0

も合わせて8.9%みられた。

家族形態は、核家族が83.8%、三世代家族が16.2%であった。(第15表)なお、祖父母以外の同居人はなかった。

第15表 祖父母の同居

	回答数	%
あり	29	16.2
なし	150	83.8
計	179	100.0

第16表 住居について

	回答数	%
一戸建	70	39.1
集合住宅	109	60.9
住んでいる階	1 F	24
	2	28
	3	15
	4 ~	22
	10 ~	3
計	179	100.0

第17表 遊べる庭の有無

	回答数	%
庭あり	93	52.0
庭なし	77	43.0
無回答	9	5.0
計	179	100.0

第18表 近くの遊び場

	回答数	%
遊び場あり	161	89.9
なし	15	8.4
無回答	3	1.7
計	179	100.0

住居および遊び場について第16表～第17表に示した。都市において、子どもが安全に遊んだり、運動したりできる環境が少なくなっていることと、S.C.の増加とが関連があるか否かを参考に調べた。結果は「遊び場あり」が89.9%と、幼児健康度調査<sup>3)</sup>における1歳児で64.2%、2歳児で63.7%に比べ、B.S.参加児の方が遊び場には恵まれていることがわかった。このことは、今回調査の

大部分の母親にとって、遊び場や運動の場が十分あっても、泳ぐためのプールという環境を子どもに与えるか否かは、別の問題であることを我々に示唆してくれた。

〔5〕 S.C.までの交通について

B.S.を始めるにあたって、プール(=S.C.)を選ぶ場合のポイントは「設備が整っていること」、「良き指導者がいること」であるが、次にあげられるのが「自宅から近いこと」である。水に入るというだけで、母児共にかんがりのエネルギーを使うので、その前後の通うことで疲れてはいけない。自宅からS.C.までの距離は、交通機関(電車など)を使った場合で、30分以内が望ましいとされている<sup>4)</sup>。交通事情にもより一概には言えないだろうが、1時間以内ならよいとする指導者もある<sup>5)</sup>。

さて利用交通機関を第19表に示した。S.C.は2カ所とも私鉄沿線に位置し、駅から徒歩で5～8分のところである。回答に重複があるのは、その日の天候などによって、変わる場合の両方を含めたためである。表中最も多いのは電車の48.6%であり、路線バスも21.2%あるように、比較的交通の便が良いせいか、スクールバスは利用されていない。

第19表 使用交通機関

	回答数	%
電車	87	48.6
路線バス	38	21.2
自家用車	48	26.8
タクシー	9	5.0
自転車	82	17.9
徒歩	19	10.6
その他	2	1.1
計	※ 235	100.0

※ 重複56

S.C.までの所要時間は20分以内が56(31.3%)、21～40分が73(40.8%)、41～60分が42(23.5%)、61分以上が8(4.5%)であった。なお、利用交通機関(第19表)で重複のあったものは長い方の時間を採用した。以上を「通うのが大変と感じますか」とクロス集計したものが第20表である。表から、40分を越えると大変だと感じる母親が多くなるのがわかる。前述30分以内が望ましいという説は適切であると思われる。一方、1時間以上かけて通っている8名中7名が大変と感じているが、それでも通っているのは、自宅の近くにB.S.実施中のS.C.がないからであろう。前回のB.S.普及状況の調査結果では、誰れもが30分以内に通える範囲でB.S.実施中のS.C.を見つけることは無理であろうということだ。

第20表「通うのが大変と感じますか」×所要時間

	20分以内	21分～	41分～	61分～	計
はい	4 (7.1)	26 (35.6)	23 (54.8)	7 (87.5)	60 (33.5)
いいえ	51 (91.1)	46 (63.0)	16 (38.1)	1 (12.5)	114 (63.7)
無回答	1 (1.8)	1 (1.4)	3 (7.1)	0 (0.0)	5 (2.8)
計	56 (100.0)	73 (100.0)	42 (100.0)	8 (100.0)	179 (100.0)

あった。そして、経験豊富なコーチを求めてということになると、S.C.までの距離が長くなるのが現状であろう。

〔6〕母親のB.S.に対する認識

母親がB.S.に関する情報を何から得て知ったか、第21表に示した。表から妊婦水泳の経験者など直接S.C.から情報を得た者を除くと、友人、知人、隣人など「人から聞いた」場合と、TV、新聞、本・雑誌など「マスコミから情報を得た」場合とに二分される。

第22表は、母親がB.S.を自分の子どもにやらせてみようと考え始めたのはいつ頃かを示した。妊娠前と妊娠中を合わせた、児が生まれる以前からが40.8%あった。

第21表 B.S.を何で知ったか

	回答数	%
医師	3	1.7
保健婦	0	—
友人・知人	70	39.1
隣人	11	6.1
TV・新聞	55	30.7
本・雑誌	49	27.4
広告	10	5.6
妊婦水泳で	4	2.2
その他	8	4.4
計	※ 210	—

※重複回答あり

第22表 いつ頃からB.S.を計画したか

	N	%
妊娠前	34	19.0
妊娠中	39	21.8
出産後	105	58.7
無回答	1	0.6
計	179	100.1

第23表 ベビースイミングを始めた目的

	回答数	%	小計%
健康のため	72	40.2	82.1
体質の改善	33	18.4	
体力づくり	27	15.1	
心身を鍛える	9	5.0	
病気などの治療	6	3.4	30.2
水に慣れる	25	14.0	
泳げるようにしたい	13	7.3	
水難事故防止	10	5.6	
親が泳げないので	6	3.4	—
社交の場を求めて	26	14.5	
性格形成・精神鍛練	13	7.3	
運動機能の発達	12	6.7	
集団・他人に慣れる	7	3.9	
エネルギー発散のため	7	3.9	
その他	20	11.2	
無回答	3	1.7	
計	229※	—	—

※重複回答あり。%は179に対する。

B.S.を始めた目的については、第23表に示した。表の小計で示したように、健康に関するものが82.1%と大半を占めている。表中、「体質の改善」とは、かぜをひきやすい、肥満傾向がある等、具体的な訴えのあるものをまとめた。健康の次にあげられたものは、「水慣れ」などの水泳そのもので小計30.2%ある。以上はB.S.の案内書に「健康・水慣れ」がうたわれているので、当然の結果とも言える。しかし、次に順位を占め注目されるのは「社交の場を求めて」（これには母親自身の社交と、児の友だち作り両方を含む）の14.5%、及び「集団・他人に慣れる」の3.9%である。すなわち、「他者との触れ合い」を求めてS.C.に通っているものが18.4%ある。一方、母児関係を良くする目的をあげた母親は「スキンシップのため」（その他に含む）の2名だけであった。以上の結果を前回調査のS.C.管理責任者の回答と照らし合わせると、S.C.側のあげた目的の第1位は「水慣れ」、第2位が「よい母子関係のため」、第3位に「健康」であったが、母親側は、第1位に「健康」、第2位が「水慣れ」、第3位は「他者との触れ合い」ということになる。「母子関係のため」と「他者との触れ合い」がそれぞれ、特徴的である。

さて実際にB.S.を始める時に母親に不安があったか否かでは、「不安あり」は43(24.0)、「不安なし」は135(75.4%)であった。不安の内容は第24表に示した。主

第24表 「始める時不安ありの内容」

「あり」43に対する%

	回答数	%	小計%
感 染	10	23.3	34.9
耳に水、水をのむ	5	11.6	
泣 く	9	20.9	30.2
人見知り	2	4.7	
母から離れるか	2	4.7	
通うのが大変	4	9.3	—
練習についていけるか	2	4.7	
まだ小さいので	2	4.7	
体に悪くないか	2	4.7	
その他	6	14.0	
無回答	2	4.7	
計	46	—	—

な内容は、感染・耳に水など「水にもぐること自体への不安」と、泣く、人見知りなど「S.C.やコーチという新しい環境への適応がうまくいか否がの不安」の2種に分けられ、ほぼ同じ位の割合である。

次にB.S.を始めるにあたり、周囲の人の反対があったかどうかについて述べたい。「反対あり」が28(15.6%)、「反対なし」が151(84.4%)であった。反対した人の内訳は、祖父母が計22、児の父親が4、その他2であった。反対の理由は以下の通りである。

- ①早すぎる。..... 8
- ②かわいそう。..... 5
- ③病気になるか..... 2
- ④心配である..... 2
- ⑥その他..... 5

さてB.S.を始めてから何カ月か過ぎると、児または母親に何らかの変化が起っているだろうか。B.S.を始める前と比べると、始めた後の期間の方が長い児がいる位で、判断が難しいし、仮に変化があったとしても、すぐにB.S.と結びつけて考えることはできないが、今回はあくまで母親の印象として、回答を求めた。第25表～第27表は児の健康面についての印象を、始めてからの期間別に集計した。3項目とも「はい」と「変わらない」がほぼ半々で、否定するものは少なかった。少数ではあるが、「病気になる回数が増えた」という印象をもっている母親が9名(5.0%)いる。開始してからの期間別にみると、3項目とも、6カ月未満では「変わらない」が「はい」より多く、6カ月を過ぎると「はい」がやや増える。この調査はB.S.を続けている人を対象とした訳であるから、否定的意見が少ないのは当然である。今後は、始

第25表 元気になりましたか

※( )内は対象児数

始めてからの期間	はい	いいえ	変わり ない	無回答	計
0～5カ月(74)	39.2	0.0	55.4	5.4	100.0
6～(56)	60.7	0.0	37.5	1.8	100.0
1年0カ月～(19)	47.4	0.0	42.1	10.5	100.0
1年6～(19)	47.4	0.0	31.6	21.1	100.1
2年0～(11)	45.5	0.0	27.3	27.3	100.1
計 (179)	48.0	0.0	44.1	7.8	99.9

第26表 病気になる回数が減りましたか

始めてからの期間	はい	いいえ	変わり ない	無回答	計
0～5カ月(74)	32.4	4.1	58.1	5.4	100.0
6～(56)	58.9	7.1	32.1	1.8	99.9
1年0カ月～(19)	47.4	0.0	47.4	5.3	100.1
1年6～(19)	47.4	5.3	36.8	10.5	100.0
2年0～(11)	54.5	9.1	18.2	18.2	100.0
計 (179)	45.3	5.0	44.1	5.6	100.0

第27表 食欲が増えましたか

始めてからの期間	はい	いいえ	変わり ない	無回答	計
0～5カ月(74)	35.1	0.0	62.2	2.7	100.0
6～(56)	41.1	0.0	55.4	3.6	100.1
1年0カ月～(19)	31.5	5.3	57.9	5.3	100.0
1年6～(19)	36.8	5.3	47.4	10.5	100.0
2年0～(11)	18.2	0.0	63.6	18.2	100.0
計 (179)	35.8	1.1	58.1	5.0	100.0

第28表 育児に自信ができましたか

始めてからの期間	はい	いいえ	変わり ない	無回答	計
0～5カ月(74)	27.0	0.0	67.6	5.4	100.0
6～(56)	46.4	0.0	53.6	0.0	100.0
1年0～(19)	47.4	0.0	52.6	0.0	100.0
1年6～(19)	42.1	0.0	57.9	0.0	100.0
2年0～(11)	54.4	0.0	36.4	9.1	100.0
計 (179)	38.5	0.0	58.7	2.8	100.0

めてから何カ月位でやめる人が多いのか、どういう印象をもちやめていったか、なども調査してみたいと思う。

第23表は、わが国のB.S.が育児の一環として強調されていることから、母親自身へ育児に対するB.S.の影響を調べた。育児に対する自信をなくした母親は皆無であった。

第26表と関連して、病欠状況についてここで述べてお

きたい。第29表は母親の記憶にある範囲でスイミングを休まざるを得ない程の病気を何回したかを答えてもらった結果である。1回の罹患で何週間(何回)休んでも、1回として集計した。対象としている期間がまちまちで、正確な罹患調査とはならないが、休んだことのないものと、1~2回休みで計90%を占めているということは、罹患率が高いとは思えなかった。

第29表 病欠の回数

回	人数	%
0	53	29.6
1	77	43.0
2	31	17.3
3	7	3.9
4	1	0.6
5	2	1.1
不明	8	4.5
計	179	100.0

第30表はどのような病気でスイミングを休んでいるかを示した。

第30表 B.S.を休む理由となった疾病

病名	回数	病名	回数
かぜ	113	気管支炎	1
突発性発疹	11	感冒性胃腸炎	1
結膜炎	6	中耳カタル	1
中耳炎	5	ジンマシン	1
トビヒ	4	アトピー性皮膚炎	1
下痢	4	水いぼ	1
扁桃炎	3	熱性痙攣	1
手足口病	3	鼻炎	1
水痘	3	ヘルペス病	1
熱	3	ヘルペス	1
外傷	3		
肺炎	2		
腹痛	2	計	172

〔7〕 S.C.へ対する印象

B.S.にかかる月謝などの費用は、各S.C.と児の参加コースによって異なる。今回の調査対象としたS.C.では55年4月現在で、初年度1年間でおよそ66,000円~91,000円(入会金、月謝、暖房費などすべて含む)になる。その他の費用としては、往復の交通費が加算されるが、以上すべてを含み、B.S.にかかる費用は高いと感じるか、との間に対し「はい」は100(55.9%)、「いいえ」は71(39.7%)、無回答が8(4.5%)であった。前年度

世帯所得とクロス集計してみたが、結果に関連はなかった。

コーチの指導法に対する不満は「あり」が、13(7.3%)、「なし」が159(88.8%)、無回答7(3.9%)であった。不満ありの内容は以下の通りであった。

- ①指導時間が短い。..... 3
- ②なかなか先へ進まない。..... 3
- ③ベビー数に対してコーチが少ない。..... 2
- ④プールをもっと広く使いたい。..... 1
- ⑤もっと楽しく..... 1
- ⑥もっとスパルタで..... 1
- ⑦個性に合う指導を..... 1
- ⑧ベビー同志で遊ばせてもよいのでは..... 1
- ⑨自由にする時間が多すぎる..... 1

以上のうち③④はS.C.の経営・管理上の問題とかかわり、すぐに解決するのは難しいと思われるが、その他はコーチと母親のコミュニケーションを良くすることによって、ある程度解決するのではないだろうか。特に①②は母親のB.S.に対する理解の不足が一因と思われるので、コーチからの説明が望まれる。しかし、全体からみれば不満があるのは13名(7.3%)と少なく、多くの場合は母親とコーチの信頼関係はうまくできているといえる。

一方、S.C.の施設・設備に関する不満は、指導法に対してより、多くがあげられた。「不満あり」が75(41.9%)、「不満なし」は94名(52.5%)、N.A. 10名(5.6%)である。不満の内容は第31表に示した。④の更衣室に関してとは、「せまい、不衛生」などもあるが、圧倒的に

第31表 設備等に対する不満

内容	回答数	%
①更衣室に関して	39	52.0
②トイレに関して	12	16.0
③水温が低い	9	12.0
④室温調節が悪い	6	8.0
⑤その他の施設の要望	8	10.7
⑥駐車場がせまい	5	6.7
⑦プールの水の衛生面の不安	3	4.0
⑧プールの使い方	3	4.0
⑨水の消毒が強すぎないか	2	2.7
⑩ホール、プールサイドが汚ない	2	2.7
⑪その他	3	4.0
無回答	1	1.3
計	49	—

(重複18)



多かったのは「ベビーベッドを設置して欲しいがベビーベッドが足りない」であった。②では「水泳プールが足りない」、「場所が不便」、「寒い」などである。⑥のその他の施設とは、待合室、プレイルーム、保育室、お風呂などの設置を希望している。以上、いずれも乳幼児が利用する施設としての配慮が必要なものである。これからのB.S.を行うプールは、これら母親の要望を考慮に入れて建設されたい。

〔8〕 今後について

続けていく上での不安・不満については、「あり」が46(25.7%)、「なし」127(70.9%)、無回答6(3.4%)であった。不安・不満の内容は第32表に示した。内容はB.S.のレッスン自体に対する不安・不満(②③)と、続けたいがやむをえない事情のもの(①④⑥⑦)とがある。⑤のかぜをひきやすいについては、心配する程度か否か、医療関係者のアドバイスを受ける必要を感じる。

第32表 続けていく上での不満・不安

%は「あり」46に対する

内 容	回答数	%
①妊娠(次の子の出産)	16	34.8
②なかなか水に慣れない	6	13.0
③上のクラスで(1人になる)ついていけるか	5	10.9
④幼稚園に入ると時間的に難しい	5	10.9
⑤風邪をひきやすい	4	8.7
⑥通うのが大変である	4	8.7
⑦転居して通いきれぬかどうか	2	4.3
⑧その他	6	13.0
無回答	1	2.2
計	49	—

(重複3)

第33表 いつ頃まで水泳を続けますか

内 容	回答数	%
①ベビーコース終了まで	7	3.9
②幼稚園に入るまで	13	7.3
③小学生になるまで	3	1.7
④子どもがやめたいと言うまで	50	27.9
⑤水難をのがれる程度、泳げるまで	23	12.8
⑥生涯スポーツとしてなるべく長く	70	39.1
⑦できれば水泳選手にしたい	1	0.6
⑧まもなくやめる(転居・出産)	2	1.1
⑨その他	9	5.0
無回答	1	0.6
計	179	100.0

第33表は、水泳を今後どの位続けるつもりかを質問した結果である。重複回答は期間の長い方を採用した。(最も回答が多かったのは「生涯スポーツとしてなるべく長く」が70(39.1%)、次に子どもの意志を尊重した「子どもがやめたいと言うまで」50(27.9%)であった。年齢で区切って考えているものは、①~⑥で計28(12.8%)であった。

〔9〕 その他の意見(自由記述)

記述のあったのは179名中10名と少ないが、参考のため内容を示すと以下の通りである。

- ①かぜなどの病気にかかりにくい。かかっても回復が早い。
- ②B.S.を始めてから発育・発達が良い。
- ③育児とはあせらずに子どもを見守るべきことだと感じる。
- ④10カ月間泣いていたが、突然泣かなくなり潜るのが好きになった。
- ⑤変化をメモに残している。
- ⑥その他(S.C.に対する意見)

V ま と め

1. 前回調査によると、児の健康診査はS.C.自体ではあまり行われていず、母親に健康管理がまかされている場合が多いことが、把握されていた。これに基づいて、今回母親による児の健康管理状況を調べた結果、定期健診の受診率、予防接種の接種率が比較的高く、B.S.参加児の母親は一般より健康管理には留意していることがわかった。
2. B.S.参加児の家庭環境は、特に高所得世帯が多いということはないが、住居環境においては、庭・遊び場があり、恵まれているようである。
3. B.S.の目的についてはS.C.側と母親側双方があげているのは「水慣れ」、「健康」であるが、対称的であったのはS.C.側の「よい母子関係のため」と母親側の「他者との触れ合い」であった。
4. 指導法に対する不満は比較的少なかったため、多くの母親はコーチに対して信頼感をもっていると考えられる。
5. S.C.の施設・設備に関する不満はプール自体より、周辺設備に関するものが多かった。乳幼児の特性を考慮した改良が望まれる。

VI お わ り に

幼児健康度調査<sup>3)</sup>のアンケート項目に、将来やらせたい習い事があるが、1歳児の母親の回答で「もうやらせ

ている」、「やらせたいと思っている」は計 2,556 (37.4%) である。そしてこのうち、水泳は 781 (30.6%) を占め、全体の11.4%の母親が「将来水泳を習わせたい」と考えている。これらの母親たちの指針とするためにも、今後ともB.S.に関する研究を進めていく必要を感じている。

最後に御協力を賜りました多摩川S.S.とロンFS.S.東村山の関係各位に感謝申し上げます。

【参考文献】

1) 曾根秀子, 他: ベビー・スイミングについて (第1報), 日本総合愛育研究所紀要第16集, 1980.

2) 今村栄一, 他: 水と育児I 「ベビー・スイミング」, 母性小児生活指導センター.  
 3) 昭和55年度幼児健康度調査報告書, (社)日本小児保健協会, 1981.3.  
 4) 厚生の指標, Vol. 27, No. 11, 厚生統計協会, 1981.  
 5) 林夕美子・林裕三: 0歳からの水泳指導, 講談社, 昭54.  
 6) 小瀬洋喜・森下正三: 新水泳場管理学, 東山書房, 昭46.  
 7) 愛育, 第46巻第8号, <特集>水に親しむ, 恩賜財団母子愛育会, 1981. 8.  
 8) 故島保子: 赤ちゃんスイスイ, 山手書房, 昭55.

曾根他：ベビー・スイミングについて

ベビースイミングについてアンケート調査

該当する番号・記号には○印を、空欄および( )内にはご記入をお願い致します。

所属スイミングクラブ又はスクール名： \_\_\_\_\_  
 ベビーの参加クラス時間帯： \_\_\_\_\_ 曜日 \_\_\_\_\_ 時 \_\_\_\_\_ 分 ~ \_\_\_\_\_ 時 \_\_\_\_\_ 分  
 ご記入者氏名： \_\_\_\_\_  
 # 住所： 〒 ( ) - ( ) \_\_\_\_\_  
 # 連絡先電話番号： ( ) \_\_\_\_\_  
 ご記入年月日： 昭和 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

I ベビーについて(健康状態など)

氏名： \_\_\_\_\_ 性別： 男・女  
 生年月日： 昭和 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

Q1 ベビースイミング開始年齢： \_\_\_\_\_ 歳 \_\_\_\_\_ か月

Q2 ベビースイミング開始にあたって医師診断を受けましたか。

1. はい → 誰にですか  
 2. いいえ  
 1. スイミングクラブ指定医・専門医  
 2. ホーム・ドクター  
 3. 保健所医師  
 4. その他 ( )

上記以外にこれまでに受けたに付いた、健康診断の時期・場所をすべてお知らせください。

月齢	場 所	所 見
(例) 3ヶ月	〇〇保健所	異常なし

Q3 ベビースイミング開始にあたって医師以外の専門家に相談されましたか。

1. はい → どこで誰にですか ( )  
 2. いいえ → どんなどときを ( )

Q11 ご自宅からの所要時間は、片道 ( ) 時間 ( ) 分

Q12 通るのが大変と感じますか。 1. はい 2. いいえ

V ベビースイミングを開始した頃について

Q13 ベビースイミングを何で知りましたか。

1. 医師から 2. 保健婦から 3. 友人・知人から 4. 隣人から  
 5. テレビ・新聞で 6. 本・雑誌で 7. 広告で 8. その他 ( )

Q14 お子さんにベビースイミングを勧めさせようとお考えになったのはいつ頃からでしたか。

1. 妊娠する前から 2. 妊娠中 3. 出産後

Q15 ベビースイミングを始められた理由、目的はなんでしたか。ご自由にお書きください。

Q16 始めるにあたって、不安なことはありませんか。

1. はい → どんなどときですか ( )  
 2. いいえ

Q17 始めるにあたって周囲の人の反対を受けましたか。

1. はい → どのたの ( ) 理由は ( )  
 2. いいえ

VII 現在までについて

Q18 これまでにお子さんが病気にかかり、スイミングを休んだことがありましたら、病名と期間をご記入ください。

病 名	期 間
	通年

VII ベビースイミングを始める前と現在とを比べてみて、変わったと感じることがありますか。

I お子さんについて

Q19 元気(活発)になりましたか。 1. はい 2. いいえ 3. 変わりない

Q4 現在、医師その他専門家の診断による障害、異常がみられらご記入ください。

Q5 これまでにお済みの予防接種はどれですか。

1. ツベルクリン 2. BCG 3. ポリオ1回目 4. ポリオ2回目  
 5. 3種混合 6. 麻疹 7. その他 ( )

II ご家族について：同居していらっしゃる方をすべてご記入ください。

職業の欄は( )の中より選り番号をお答えください。

1. 農林・漁業 2. 自営業者 3. 販売業・サービス業 4. 技能職・熟練職 5. 一般作業職  
 6. 事務職・技術職 7. 経営職・管理職 8. 専門職・自由職・その他 9. 家庭主婦 10. 無職

続柄	年令	性別	職 業	前年度年収	最終学歴	健康状態	泳げますか	水泳以外の得意なスポーツ
父	才	男		万円		良・不良	可・不可	
母		女				良・不良	可・不可	
						良・不良	可・不可	
						良・不良	可・不可	
						良・不良	可・不可	
						良・不良	可・不可	
						良・不良	可・不可	
						良・不良	可・不可	
						良・不良	可・不可	
						良・不良	可・不可	

III お住まいについて、該当するものを○でお開ください。

Q6 1. 一戸建 2. 集合住宅 → ( ) 階に居住

Q7 お子さんの遊べる庭 1. 有 2. 無

Q8 近くに遊び場がありますか 1. 有 2. 無

IV スイミングスクールまでの交通について

Q9 使用交通機関はどれですか。

1. 電車 2. 路線バス 3. スイミングスクールのバス 4. 自家用車  
 5. タクシー 6. 自転車 7. 徒歩 8. その他 ( )

Q10 交通費は1回往復いくらかかりますか。 ( ) 円

Q20 病気になる回数が増りましたか。(かぜを含む) 1. はい 2. いいえ 3. 変わりない

Q21 食欲が増しましたか。 1. はい 2. いいえ 3. 変わりない

II お母さま自身について

Q22 育児に自信がつかえましたか。 1. はい 2. いいえ 3. 変わりない

VIII 費用、レッスンについて

Q23 入会時の費用はいくらかかりましたか。(入会金、レッスン料、健康診断のためにかかった費用、水着等すべてを含みます) ( ) 円

Q24 現在、毎月ベビースイミングのためにかかる費用はいくらですか。

- 月 謝 ( ) 円  
 交通費 ( ) 円  
 その他 ( ) 円

Q25 費用は高いと感じますか。 1. はい 2. いいえ

Q26 指導方法に不満がありますか。

1. はい → どんなどときですか ( )  
 2. いいえ

Q27 設備等に不満がありますか。

1. はい → どんなどときですか ( )  
 2. いいえ

IX 今後について

Q28 続けていく上で不安又は不都合なことがありますか。

1. はい → どんなどときですか。( )  
 2. いいえ

Q29 いつ頃まで、続ける予定ですか。

1. ベビーコース終了まで 2. 幼稚園に入るまで  
 3. 小学生になるまで 4. 子どもがやめたいというまで  
 5. 水泳をのがれられる程度、泳げるようになるまで  
 6. 生涯スポーツとして、なるべく長く  
 7. できれば水泳選手にしたい  
 8. その他 ( )  
 9. まもなくやめる → 理由は ( )

※ ご協力ありがとうございました。尚、ご意見ご感想がありましたら、余白にお書き添付いただけます。